

在宅医療実施による薬剤師の意識変化 ～テキストマイニングによるあぶり出し～
○李 蘭香¹, 堀野 智美¹, 大和 幹枝¹, 高橋 直子¹, 岸田 充生¹, 細見 光一¹,
藤垣 哲彦², 松野 純男¹, 北小路 学¹, 高田 充隆¹ (¹近畿大学, ²大阪府薬剤師会)

【目的】近年、在宅医療の推進により在宅患者の療養生活における適切な服薬の支援が求められており、薬局薬剤師の在宅医療への参画が今後さらに必要不可欠になると思われる。我々は、これまで大阪府薬剤師会会員薬局を対象にアンケート調査を実施し、薬局薬剤師の在宅医療への参画に関する問題点の整理ならびに解決策の提案を行ってきた。本研究では、調査で得られた自由記述について、テキストマイニング手法を用いて解析を行い、訪問服薬指導業務の実施群と未実施群の特徴について考察したので報告する。

【方法】対象は大阪府薬剤師会会員薬局の3249薬局、内容は薬剤師の患者宅訪問の必要性に関する記述及び自由記述とした。実施時期は2011年4月、解析にはテキストマイニングソフトKH coder及びText Seerを用い、単語の出現頻度と係り受け・共起解析により、単語の重要度とその関連性について検討した。

【結果・考察】アンケート回収率は47.8%(1553薬局)であり、患者宅訪問の必要性に関する記述：747件、自由記述：429件の回答が得られた。特に、係り受け解析の結果、患者宅訪問の必要性に関する記述において、実施群では患者の服薬コンプライアンスを意識した「薬剤師による薬の管理」といった継続的な内容が、未実施群では「薬の確認・説明」といった一時的な内容が目立った。また、自由記述においては、実施群では「他職種連携」「書類」「報告」等実施内容に関する記述が特徴的であり、現段階での薬剤師参画の課題を浮き彫りにすることができた。一方、未実施群では「人員不足」が最大の課題となっていることが判明した。今後、これらの課題について対策を講じることで、在宅医療への薬剤師の参画推進につなげていきたい。